

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	てくてく	公表日	2026年 3月 17日	公表日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室のスペースとの関係で適切であるか。	○			遊びの時になるとスペースが手狭になる。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○				
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○	○		わかりやすく、構造化に努めている。	手すりや、段差解消はしたいと思えます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			毎活動前に清掃している。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			クールダウンの部屋を用意しています。	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			ケース会議や全体会議にて行っている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			アンケートの結果を職員全体で共有して改善に努めている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			会議の時には、もちろん普段の業務中にも意見を聞く。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			外部評価は、実施できていません。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○			外部研修への参加、事業所内研修には全職員が参加しています。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			ホームページにて、公表しています。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			ケース会議等で検討し作成している。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○				
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			ケース会議で検討し情報共有を行っています。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			行動力の状況は色々な側面から観察し、確認している。	
適切な支援の提供	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				地域支援、地域連携には積極的に取り組みたい。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			会議等、打ち合わせ時に意見を出し合っている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			会議等、打ち合わせ時に意見を出し合っている。	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○				
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			活動前にミーティングを行い情報共有している。	

21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		送迎後の為に全員で申し込りはできない日もあります。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		連絡帳、日報によりその日の出来事を記録
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切は見直しを行っているか。	○		6ヶ月毎の支援計画作成時にモニタリングをして反映に努めている
24	障害児相談支援事業所のサービスマン担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		自己決定できる。
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		契約時には説明させていただいています。 より丁寧な説明を心がける。
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		面談時に伺い 計画に反映しています。 今後も保護者様の意向を真摯に受けていきます。
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に対応し、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		丁寧な説明を心がける。
39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、まようだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		
40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		面談や、送迎時のひまぎつなど保護者様の意向を聞く。

関係機関や保護者との連携

保護者への説明等

42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			個人情報に今まで以上に留意していきます。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	○		
46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	○		医師の指示書はもらっていない
50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	○		周知しきれていない。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			

非常時等の対応

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	てくてく		
○保護者評価実施期間	R8年2月1日	～	R8年3月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 24名	(回答者数)	19名
○従業者評価実施期間	R8年3月1日	～	R8年3月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	情報共有がなされ、職員間のコミュニケーションが活発。	定期的な会議等での意見交換や毎日の支援前の会議での話し合いを日常会話も含め行っている。	継続して、取り組みをしている。
2	利用者さんが、通所を楽しみにしている事	一人一人のコミュニケーションを大切にして、関わりを密にしている。	楽しくて、またやりたくなるようなプログラムの提案を継続する。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者の年齢の幅が大きく、個別対応が難しい。	個人の状況に合った個別の対応の方法を上手く取り入れていない。	職員の個別対応力の改善と向上を計る
2	活動スペースが狭いなどと感じる。	構造上の問題がある。	手狭と感ずる中でも、物の配置などスペースを考え広く活動できる工夫をする
3	事業所の状況・取り組み(マニュアル等)の伝達が不十分	お知らせや、おたよりでの周知が難しかった。	丁寧に何度も繰り返し伝えるようにする。